



鉄スクラップ高騰

資源の価格が、上昇しています。日本経済新聞などにも掲載されていますが、鉄スクラップ問屋で組織する関東鉄源協同組合の輸出向け入札も高値で落札されました。昨年の4月と比べると180%近い値上がりです。要因の一つとして、リーマンショックからのアジアの急速な回復にあります。元来、スクラップは、生産品ではなく、発生品です。生産工場が稼働し発生する、あるいは住宅建設に伴う解体によって発生する。そういったものです。ですからある意味では弾性に乏しい商品とも言えます。日本国内では、ようやく大手市場企業の業績が、回復を始め、なんとか水面から顔が出たといった状況です。また、前期決算が赤字だった企業は、今期こそ黒字で決算を迎えたいと考えている事と思います。ですから、短期的な設備意欲は極めて弱く、また、生産も稼働率100%には、まだ届かない状況だと思われます。建築に於いても、先行き不透明な時代に、借金をして住宅を取得する人は、それ程居る訳ではありません。今、日本の国内スクラップは、発生減の状況であり、一方でアジアの急速な需要の高まりに、無い物高といった状況です。価格的には、07年レベルですので、まあまあといった所で喜ばしいのですが、いずれにしろ、物量の大きな回復はなかなか望めそうにありません。

さらに、最近新聞を賑わわせた鉄鉱石の90%値上げ、3ヶ月単位の値決めといったニュースですが、鉄鉱石メーカーは、寡占状態であり需要家に交渉力はありません。特に、日本は、中国にも生産量で大きく離されており、まったく勝負になりません。しかし、寡占化状態である事が、鉄鋼素材関連の価格下支えにもなっております。今回は、08年の様な急落は、無いかもしれません。

国際鉄リサイクルフォーラム

我々の業界団体であります、(社)日本鉄リサイクル工業会主催で、国際鉄リサイクルフォーラムが、6月10日に開催されます。日本鉄リサイクル工業会の全国大会に併せて行われるのですが、昨年、BIRに加盟した事もあり、今年はより大きなフォーラムになると思われます。今年の参加団体は以下の通りです。

BIR(ベルギー)

(Bureau of International Recycling)

ISRI(アメリカ)

(The Institute of Scrap Recycling Industries)

KOAS(韓国)

(Korea Iron and Steel Association)

CAMU(中国)

(China Association of Metal Scrap Utilization)

Taiwan Steel and Iron Industries Association

(台湾)

昨年の北海道大会で要望のあった、同時通訳の導入なども検討されており、より活発なフォーラムになる事と思われます。

昨年の秋に、韓国・東部製鉄 韓光熙社長を招いて、ある新聞社主催のシンポジウムが行われたのですが、その際も韓国の積極的な設備投資についてご講演頂きました。日本が、リーマンショックから立ち直れずにいる中において、大きな違いを感じたものでした。日本の常識は、世界に於いては、非常識な部分が多々あるのかも知れません。アメリカのMBAでも日本人の減少が著しいといった記事を良く目にします。やはり、自らの目で多くの国を見ることによって、世界といったものが見えてくるでしょう。我々の商いに於いても、アルミメーカーなどは、国内の設備を需要の旺盛な、アジアの国々に設置しなしております。それは、自動車など消費財の大きな生産地がアジアにある事を意味しています。そして同時に、我々の販売先もこういったメーカーが展開する海外に、といった事に繋がって行きます。ロンドンのLMEが中心になって国際的な価格指標を示し、アジア各国のロケーション、為替、需要などの要因によって、日本の国内価格が決定していく。この流れが、より鮮明になっていくのが今年かも知れません。アジアの発展を支えるフロンティアスピリッツに、楽に勝てる訳ありませんが、粘り強いチャレンジあるのみです。